

こころんNEWS

拡大版

NO. 13
H20年11月

11月の作業部会全体会ではこれまで各ワーキンググループや専門職部会で話し合ってきたことを提案していただき、作業部会・専門職部会・策定委員会みなさんで質問や意見を交わしました。みなさんからの熱意ある、具体的な提案に会場も大変盛り上がりしました。

今後はこれらの提案を事業化するために、事務局で予算や体制を検討していきます。策定委員会とやりとをししながら、引き続き各ワーキンググループにも経過報告をしながら計画化にむけてがんばっていきます。

11月の経過報告

11/7 第10回専門職部会

引き続き区内の保健医療福祉の冊子作りのため、障害者・児童（子育て）のニーズと窓口を整理しました。今後は高齢・障害・児童のニーズを共通して12分類のニーズに分けて再整理することになりました。

11/12 滝川学区 第4回作業部会

これまで話し合ってきた理念と課題の関係を整理し、そこから考えられる取り組みについて意見を出し合いました。

11/19 作業部会全体会（裏面）

11/19 プロジェクトチーム会議 見守りネット（仮称）について

11/27 学区担当者会

職員ミーティング 11/5・11/6・11/10・11/11・11/12・11/17

事業分析/見守りネットの検討

所属別ミーティング

<デイサービス部門> 11/17

<包括支援センター部門> 11/17

<ケアマネ部門> 11/18

<訪問介護部門> 11/19

ワーキンググループ

（メンバーからのリポートは裏面）

<福祉課題> 11/11

<担い手> 11/11

<場づくり> 11/4・11/14

<福祉意識> 11/4・11/13

社協の丹羽です。私は、福祉課題のワーキンググループに参加させていただきました。ワーキンググループでは、日頃から多方面でご活躍中のメンバーのそれぞれの視点から活発な意見交換が行われ、皆さんの昭和区への熱い郷土愛を感じました。お聞きした言葉ひとつひとつを大切に受けとめ、昭和区をもっともっと住みやすいまちにするための取り組みを皆さんと一緒に進めていきたいと思っています。



12月の予定

職員ミーティング・計画骨子打合せ 12/3（水） 17:30～19:30

職員全体研修 12/10（水） 17:30～19:30

第11回専門職部会 12/12（金） 19:00～21:00

学区計画 滝川学区 策定委員会・作業部会合同会議

12/15（月） 9:30～11:30

第3回策定委員会 12/17（水） 14:00～16:00

学区担当者会 12/25（木） 15:00～17:00



特集

第5回作業部会（全体会）開催しました!!

H20.11.19 15:00～17:00 参加者34名
～策定委員・専門職部会メンバー同席のもと、それぞれ話し合ってきたことを提案し、意見をかわしました～



WG 福祉課題からの提案

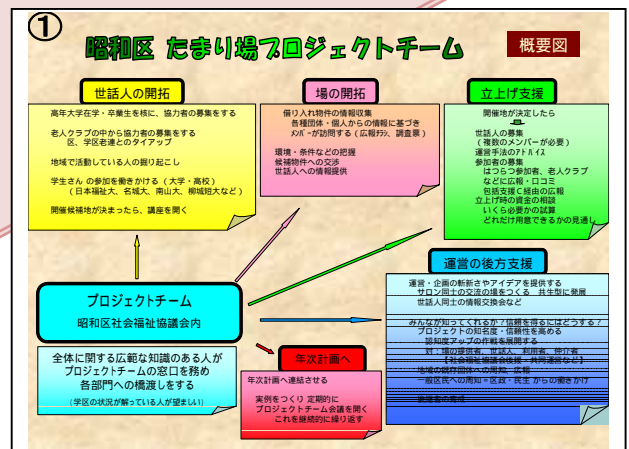
困った時にどこに相談したらいいか、必要な情報を必要な人に届けるために、区内に活動拠点が有り、様々な分野で活動している自主グループや機関などの活動を調べて冊子にまとめます。そしてその冊子を日常的に相談を受けやすい立場にある人に配布し、課題解決に結び付けたいと思います。

その後は冊子掲載団体の横のつながりなどへの支援も考えていきます。

WG 場づくりからの提案

身近な地域で集まることのできるたまり場の町内単位での開設をめざして、具体的な開催候補地の開拓や、そこで活動できる世話人の養成などの立ち上げ支援をします。また、立ち上がったたまり場の後方支援としての交流会や研修会の開催も企画・実施します。

これらの企画実施はプロジェクトチームが核となり、PDCA サイクルで進捗状況をチェックしながら進めていきたいと思ひます。



WG 福祉意識からの提案

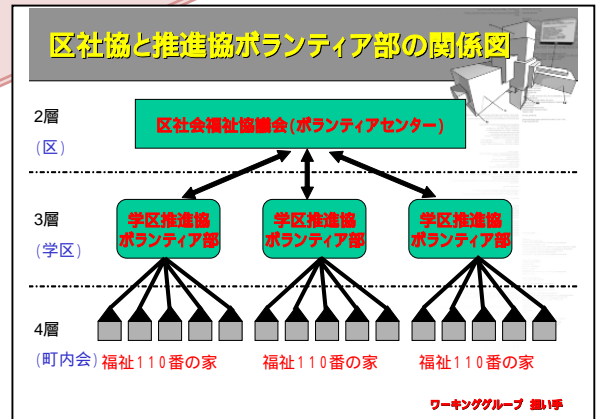
高齢者やふだんあまり関わることの少ない障害のある人たちと、音楽やスポーツなどの複数回の交流を通して理解し合える機会づくりをしていきます。対象は小中高校や推進協で、企画の段階から一緒に考え作りあげていきたいと思ひます。また、特に学校の生徒会にも働きかけ、高齢者や障害のある人や、その方たちに関わる支援者の方たちから話を聞く機会づくりもしていきます。



WG 担い手からの提案

推進協の運営が複数の役割を兼務している団体役員に負担がかかっていることから、実働部隊となり得るボランティア部を推進協の中に設置することを提案します。また地域の個別の困りごとをキャッチするしくみとして福祉110番の家を町内単位で設置することをめざし、そこからボランティア部会へつなげます。学区のボランティア部会で解決できないことは区社協のボランティアセンターにつなげていきます。

推進協への研修会などにも協力し、こうしたしくみづくりの立ち上げ支援をしたいと思っております。



専門職部会からの提案



事例検討を通して昭和区における保健・医療・福祉の課題を分析してきた中で、高齢・障害・児童の分野で専門職が縦割りになっていることなどの課題が浮かび上がりました。2次計画では、困った人がたらい回しにされることなく相談できる仕組みづくりと、そこからつながる児童・障害・高齢の分野を超えた保健・医療・福祉のセーフティネットワークづくりを推進していきたいと思っております。

みなさんが忙しいなか、こうして短期間にもかかわらず集中して議論した結果が報告されました。「住民主体」で昭和区の地域福祉を推進していくための、ひとつの形が出来てきたように思います。本当にみなさんお疲れ様でした。

介護保険をはじめ、福祉サービスをうまく利用できない一番の原因は、相談相手や情報がないこと。福祉課題WGはここに注目されました。このことは専門職部会からの提案と重なることもあり、これから具体化にむけて拍車がかかります。地域づくりは、そこに住む人たちが交わり語り合う「空間」が必要です。昔の井戸端会議やたまり場を今日的につくりだしていくための支援。それを場づくりWGは自らが企画実施していこうと燃えています。さらに一人ひとりの福祉意識をどう高めていくか。福祉意識WGは単なる啓発やスローガンではなく、具体的な学びあうプログラムを提案しています。さらに地域の担い手を増やしていくために、担い手WGでは身近なニーズキャッチと推進協を活性化することで、システムとして展開していく構想をまとめました。

どのWGも共通していたのは、進行管理の重要性です。言い放しにしない。こうした提案を計画のなかにきちんと位置づけ、次の5年間で実現できるよう協働していくことが何より大事だというご意見に、深く共鳴しました。

【日本福祉大学 原田 正樹先生】





福祉課題

〔11月11日第5回会議で話し合われたこと〕

11月19日に行われる作業部会全体会での発表に向けての話合い及び当日の役割分担を決めました。

これまで話し合われてきたことを、「提案シート」の項目に従って整理していく中で、地域住民の福祉課題（困り事）を解決に導く「既存の組織や団体」について、メンバーのイメージするものを具体的に出し合いました。自治組織（区政協力委員、町内会、組、消防団）区役所、保健所、警察署など公的機関もあれば、老人会、ボランティアグループ、各種サークル・自主グループなども公的機関ではカバーできてない又は不足な心のケア、気持ちの部分での支えとなっていると考えられ、活動情報の収集・提供が人と人がつながる（タイムリーな情報提供）支援となると再確認しました。また、自主グループ・各種サークルの情報をいかに集めるかを話し合い、最後に全体会での発表方法について打ち合わせをしました。【浅井さん】



担い手

【第6回 11/11（火）】

第1回より“担い手とは”と思考錯誤し、激論したものの、第1次計画と同様な内容に。以後、その計画の実効性を求め、主体となる推進協の機能の拡充を図る事へと軌道修正をし、地域に精通し、ボランティア活動に積極的な人材の発掘・育成を図り、地域の支えあいのしくみ作りを検討しました。

第6回には、日常的・福祉的な困りごとに対応するには、地域に密着し、迅速に対応可能な“福祉110番”の設置が必要であり、少なくとも町内に1軒は設置すべしとのシステム作りの基礎ができ、やっと“無”から“有”へと脱出しました。

我々WGメンバーは、その基礎たる“有”を地域住民に福祉を享受していただける”実“に結びつける協力を今後も惜しまずに努めようとの言葉で作業部会の幕を閉じました。【長谷川さん】

ワーキンググループの声



場づくり

メンバー8名が、延べ8回の会議に積極的参加、場とはなあーにから始まり、区内たまり場マップ作りと傾向分析、行動するワーキンググループとして、緑区社協「たまり場講演&交流会」に参加し情報収集、又4サロンを見学し情報収集等、参考に出来る事は取入れる方針で積極的行動し議論しました。

1次5ヵ年計画では、計画を実行にむすびつける進行管理のしくみがなかったことが要因であったと考え、2次計画では、より身近な地域で集まれる場としての「たまり場」を町内レベルで作っていくことを目指し、企画実施・進行管理の機能を持つしくみとして、昭和区たまり場プロジェクトチームを設置することにしました。プロジェクトチームが今後5ヵ年計画のPDCAサイクルを確実に実施し、より時代に合った、いつでも・誰でも、気軽に集まることができる「たまり場」が、昭和区内の各町内に多数出来、交流が広がり笑顔のある地域なればとまとまりました。

参加いただいたグループメンバーに恵まれ、とても楽しい時間でした。メンバーに感謝・感謝、立派な報告書もでき感謝・感謝。皆様ご苦勞様でした。【日比野】



福祉意識

私たちのWGが提案した事業は「ふれあい・交流による福祉意識啓発事業」「当事者等の話を聞く場（座談会）」で、地域団体や小中高校が対象で行われます。どうすれば福祉意識の啓発ができるのだろうと考え、この2つの事業が提案されました。

私たちWGが主体とならなくてもこの事業が継続できるよう推進協や各学校の生徒会のみなさんと手を組んで行っていきます。

これまで何回かWGで検討を重ねてきて、様々な意見が出されました。私自身とても勉強になり、これからの5ヵ年計画もがんばっていこうと思います。【竹田さん】

WGのメンバーのみなさま、本当に今までありがとうございました。福祉意識というテーマで雲をつかむような感覚で始まったワーキンググループでしたが、みなさんの活発なご意見と熱意のおかげでとても有効な事業が考え出されました。今後はこの事業をみなさんと共に推進していきたいと思っておりますので、今後も変わらぬご協力をお願いします。

【津貫】